

令和8年度第1回 鳴門市児童福祉審議会 議事録

日 時 令和8年8月18日(火) 午後7時～

場 所 鳴門市役所 2階大会議室

出席者 委員11名、関係課・事務局職員14名

欠席者 委員5名

傍聴者 1名

概 要

1 開会

2 会長あいさつ

3 委員自己紹介

4 議事

(1) 鳴門市こども計画(第3期鳴門市子ども・子育て支援事業計画) 令和7年度実績について

資料「令和8年度第1回 会議資料」、「鳴門市こども計画(概要版)」を事務局より説明。

(A委員)

会議資料5ページの下部にある、12歳未満の子どもの人口について、見込みと実績の差があり、全体で131名少なくなっている。説明の中では年齢が上がれば上がるほど、子どもの数が少なくなっているということだったが、これは、0歳が微増していることを考えると、途中で転出した人が予想以上に多かったという結果なのか。この見込みと大きくズレることとなった結果を、どう考えているか教えてほしい。

(事務局)

今回実績として、合計数を計上している。年齢別で見ると、6歳や8歳で減少幅が大きくなっているが、3歳や7歳については増加しており、年齢が上がるにつれて一律に減少しているのではないと考えている。出生数の年度ごとの違いもあるが、転入転出等の社会的動体も影響していると考えられることから、年齢別の人口移動の状況を確認した上で、分析していく必要もあると考えている。

(A委員)

年齢別に出ていく人が多いということは、おそらく0歳については支援が手厚くて、割と転入される方が多いと思う。また、これから子どもを産んで、住まいを構えるというときに、候補として鳴門市がいいという話もよく聞く。これは、鳴門市が努力している結果だと思う。どの年齢で転出が増えるのか、分析することが大事だと思う。

(B委員)

今発表していただいた、会議資料4ページのNo.12「子育て世帯訪問支援事業」について、この

事業を担当する支援員が足りているのかどうか。不足しているのであれば、地域の自治体等のサポートを受けたいと思うが、ご意見をいただきたい。

(事務局)

「子育て世帯訪問支援事業」についてだが、会議資料5ページを見ていただくとわかるように、令和7年度の実績は0件となっている。しかし、これは、支援体制が整っていないことが理由で0件となっているのではない。この事業は、支援を受けたいと思う子育て世帯の方から申請があった場合に訪問させていただいているが、実際、令和7年度は申請がなかったため0件となっている。

令和8年度から名称が「子育て世帯訪問支援事業」となったが、以前は「産前産後ヘルパー派遣事業」という名称であった。「産前産後ヘルパー派遣事業」は、対象者かどうかを細かく確認する必要があったが、「子育て世帯訪問支援事業」は対象者の要件が緩和された。令和8年9月から本格的に事業開始ができるよう、こども家庭センターが進めている。今後は、今まで以上にこちらの事業を使っただけのように取り組んでいく。

(B委員)

今後、そのような申し出があった場合は、サポートをよろしくお願いしたい。

(C委員)

県外から徳島市に移住してきた方や、県内の南の方や西の方にお住まいで徳島市に引っ越しをしてきた人にお話を伺ったところ、鳴門市が子育て支援を頑張っていることを知らずに、とりあえず住みやすいのは徳島市だろうと思い、徳島市しか検討せずに引っ越しを決めたと言っていた。

また、鳴門市には、新1年生ランドセル無償化事業や保育料無償化があると話をしたら、「じゃあ鳴門市にすればよかった」との話をよく聞く。もっと鳴門市の良いところを県内全域にアピールした方が、県内からの移住者が増えるのではないかと思った。年々人口が減っているのは残念に思う。

(事務局)

本日、お手元に「なるとまるごと子育て応援パッケージ」のパンフレットをお配りしているが、こちらについても、どれくらいみなさんに知っていただけるかというのが課題になっている。今後、鳴門以外にお住まいの方に対しても周知できるような方法を考えていく。

(D委員)

観光客の方が鳴門に来られて、ここが良いと思ってそのまま鳴門市に住むことで人口が増えたというのはよく聞くが、県内からの移住というのは盲点だった。もっとアピールすべきだと思う。

しかし、その割には3歳～8歳ぐらいまでの子の人数が減っているというのは何故なのか。

(C委員)

コロナ禍に出産をするのは怖いと、出産を控えたお母さんは多かったと聞いた。コロナ禍には、病院に行きにくいと、今は妊娠はやめておこうと話した夫婦を何組か知っている。私自身、緊急事態宣言中に出産をしたが、病院の体制が整っていたため安心して出産できた。しかし、実際に

1歳から5歳までのお子さんは少ない。また、幼稚園と小学校で絵本の読み聞かせも行っているが、そちらでも子どもの人数は減っていると感じる。

(会長)

放課後児童クラブの実態というのは、この数字に表れているのか。

(E委員)

年々、利用率が上がってきている状況。大きいところだったら100人以上のところもある。

(2) 鳴門市子ども計画 別紙(追記)について

資料「令和8年度第1回 会議資料」、資料「こども・子育て支援事業債の概要」を説明。

(C委員)

鳴門市は、屋外にもたくさん遊具のある公園を作っていただいているが、それを維持管理するのがときどき疎かになっているのではないかと思うときがある。綺麗な状態で維持していただきたいとまでは言わないが、子どもが怪我をしない程度に維持管理をしていただけたらと思う。

特に、遊具や階段が木で作られて朽ちていた場合、子どもが転ぶと危ないと思うし、草がたくさん生えていたら遊べない。鳴門市に申告すれば綺麗になるかもしれないが、住民が毎回どうにかしてほしいと言うことは難しいため、せっかくある公園をもっと有意義に使えるように、維持管理していただけたらと思う。

(事務局)

公園については、いろいろな種類があり、行政が管理するものと、できた経緯がわからない公園があり、近くにある小さい公園が行政の管理する公園ではない場合もある。公園担当も、全体的に公園が多い中で、できる部分とできない部分があり、現状整理している状況である。お話しいただいたように、全体に手が行き届いておらず、地域の方の手を借りている部分もあるが、今回の資料の「鳴門市こども計画(別冊)施策一覧」の12ページに、子どもの遊び場の整理を記載させていただいている。市単独では予算の確保が難しくなってくるところを、国の子育て支援事業債を活用して公園の整備を進めていく予定である。もし、近くの公園で何か不具合があった場合は、お知らせ頂いて、対応をさせていただけたらと思う。

(C委員)

公園の整備について、要望をしていいとわかっただけでもありがたい。

(会長)

今回、追記する事項は、「鳴門市こども計画(別冊)施策一覧」のどこに該当するのか。

(事務局)

先ほどご説明した、「鳴門市こども計画(別冊)施策一覧」12ページの「こどもの遊び場の整備」

に該当する。今後は、鳴門市こども未来館に室内の子どもの遊び場を設置したり、こども未来館の前の広場を子どもたちが遊べる空間として整備したり、国の子育て支援事業債を活用して事業を実施していく。

(B委員)

「鳴門市こども計画（別冊）施策一覧」の9ページ、「次世代を担う人材の育成」と記載があるが、全国的に不足している保育士の確保について、何か対策を考えているのであれば教えていただきたい。

(事務局)

確かに、鳴門市においても保育士不足は大きな課題となっている。鳴門市独自の施策ということで、保育士等人材確保推進事業については力を入れている。例えば、保育士になるにあたって奨学金を借りている方に対して補助をしたり、所得の底上げのための施策を実施したりしている。鳴門教育大学をはじめ、県内の保育士の養成課程のある学校とも協力しながら、保育士になりたい方がどのようなニーズを持っていて、どのようなサポートをしたら保育士になりたいと思っていただけるのか、聞き取りも行いながら、施策に反映していきたいと考えている。

(B委員)

保育士は対応面でもいろいろ言われており、人材確保は難しいと思うが、引き続きよろしくお願ひしたい。

(会長)

では、「鳴門市子ども計画 別紙」に追記することとしてよいか。

(各委員)

異議なし。

(3) その他

特になし

7 閉会